市川市芸術祭　市川市文化振興財団新人演奏家コンクール協力事業

市響

第407回 交響楽の午後

©Yoshinobu Fukaya/aura.Y2

2019.7.7(日)

午後2時開演(1時30分開場)

市川市文化会館大ホール

(JR総武線・本八幡駅下車)

入場無料 【未就学児は入場できません】

お問い合わせ：TEL.047-339-3554市川交響楽団協会（篠田）　市響ホームページ：http://ichikyo.org/

主催：市川交響楽団協会　共催：市川市　協力：(公財)市川市文化振興財団　山崎製パン株式会社　後援：千葉交響楽団協会

本日のプログラム
第407回 交響楽の午後

ワーグナー／舞台神聖祝典劇『パルジファル』第1幕への前奏曲

ベートーヴェン／ピアノ、ヴァイオリン、チェロと管弦楽のための協奏曲 ハ長調 作品56
（ベーレンライター版）

第1楽章 アレグロ
第2楽章 ラルゴ
第3楽章 ロンド・アラ・ポラッカ

ピアノ：野上真梨子　ヴァイオリン：小高根ふみ　チェロ：ピーティ田代櫻

♬ 休憩

ブルックナー／交響曲第5番 変ロ長調（ノヴァーク版）

第1楽章 序奏部：アダージョ - アレグロ
第2楽章 アダージョ、非常にゆっくりと。
第3楽章 スケルツォ：モルト・ヴィヴァーチェ、急速に、トリオ：同じテンポで
第4楽章 終曲 アダージョ - アレグロ・モデラート

＜終演は16時20分ごろとなります＞

プロフィール

指揮：三原明人（みはら・あきひと）

1961年東京生まれ。東京芸術大学でヴィオラを専攻、その後桐朋学園とウィーン国立音楽大学で指揮法を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマン各氏に師事。さらにイタリアでゲンナジ・ロジェストヴェンスキー、モーシェ・アツモン、ドイツでヘリベルト・バイセル各氏に師事。1989年オランダで行われた「第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」第2位、1993年ドイツ・ハレで開かれた若手指揮者育成のための「DIRIGENTEN　FORUM」で最優秀ファイナリスト、1996年ポルトガルで行なわれた「第8回リスボン国際青年指揮者コンクール」第3位（1位なし）入賞。

1989/1990のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタントを務め、1991年よりオペラ作品などで外山雄三、広上淳一各氏のアシスタント、1996年ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務めるなど研鑽を積みながら、ヨーロッパと日本を中心に活動。これまでにオランダ放送フィル、ドイツ・ハレ国立フィル、ブダペストMAV響、リスボン・メトロポリタン管、フィンランド・クオピオ響、ブルガリアの名門ソフィア・フィル、読売日響、東京都響、日本フィル、東京フィル、東京交響楽団、札幌交響楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィル、名古屋フィル、オーケストラアンサンブル金沢、大阪センチュリー響、広島交響楽団、佼成ウィンドなどを指揮して、コンサート、テレビ、ラジオなどへの放送録音、ＣＤ・映画音楽製作など各方面から高い評価を得ている。特に京都フィル定期では、ビニャオのマリンバ協奏曲日本初演のほか、武満の「トゥリー・ライン」、シェーンベルクの室内交響曲を指揮し、新聞ほか各誌で絶賛された。現在は東京音楽大学指揮科講師及び同付属高校講師として、後進の育成にも務めている。

中学～高校時代に市響ジュニアオーケストラ創設時の初代コンサートマスターを務め、故村上正治氏の薫陶を受ける。芸大卒業まで市響団員としてヴァイオリン及びヴィオラで演奏に参加、その後指揮者として何度も市響の指揮台に立つ。

2017年より開催している山崎製パンＬＬＣホール「フレンドシップコンサート」では、市響弦楽器団員へ室内楽の指導を行うとともにヴァイオリン及びヴィオラで演奏にも参加している。

プログラムノート

かんばら ひとし

ワーグナーはベートーヴェンを尊敬し、ブルックナーはワーグナーを尊敬していました。もちろんブルックナーもベートーヴェンを尊敬していました。

ワーグナー／舞台神聖祝典劇『パルジファル』第1幕への前奏曲）

『パルジファル』は聖杯伝説を元に書かれたものです。聖杯とはキリストが最後の晩餐で「これは私の血である」とぶどう酒を飲ませた杯で、キリストが十字架に架けられたとき血を受けたとされています。

場所は中世のスペイン。第１幕は、聖槍（十字架上のキリストの脇腹を刺した槍で、世界を制する力が与えられると言われている）を奪われ王が、傷を癒すために湖に向かうところから始まります。傷を治すには「ともに苦しむことで知を得る、汚れなき愚者を待て」という神託を受けます。そこに白鳥を弓で射たと若者が引きたてられます。若者は自分が何者かも知りませんが、老騎士は彼が「汚れなき愚者（パルジファル）」ではと、聖杯の儀式に立ち会わせます。しかし若者は茫然として立ちつくすばかりです。

曲は木管楽器と弦で奏される「聖餐の動機」で始まり、金管楽器による「聖杯の動機」「信仰の動機」、チェロ・オーボエ・ホルンによる「聖槍の動機」と聴く人を敬虔な気持ちで満たす旋律に満ちあふれています。

（演奏時間約15分）

ベートーヴェン／ピアノ、ヴァイオリン、チェロと管弦楽のための協奏曲

英雄交響曲とほぼ同時期、ベートーヴェン34歳頃に作曲されたピアノ三重奏を独奏群とした珍しい協奏曲です。

ピアノ三重奏は、交響曲や弦楽四重奏同様ハイドンが生みの親で、ベートーヴェンが育てた古典派室内楽編成です。ヴァイオリンとチェロにもピアノと同等の価値を与えられ３つの楽器が競い合い互いに高め合うものです。

この協奏曲では、それにオーケストラとの対比が加わり聴くものを魅了する名曲です。一般的な協奏曲と同じ、速い－ゆっくり－速い、の３楽章形式です。**第1楽章**はオーケストラで低音弦楽器の弱音な中にも重厚な第1主題と、ヴァイオリンでの第2主題が提示されます。それらを受けてソリストたちが加わり、ベートーヴェンの若き円熟を歌いあげます。力強さで締めくくられる壮大な第１楽章に対し、**第2楽章**ラルゴは時に神に祈りを捧げ、時に甘く囁き、時に嘆くかのような6分間で、切れ目なくそのまま**第3楽章**に入ります。心踊るロンド形式は途中ポロネーズ風部分を挟んだのち、チェロ、ヴァイオリン、ピアノ、オーケストラの力が融合されて曲は閉じられます。

今回は1951年生まれの音楽学者デル・マー編による『新ベートーヴェン全集』の楽譜で演奏されます。

（演奏時間約35分）

ブルックナー／交響曲第5番　変ロ長調

ブルックナーの交響曲はどれも一本太い軸の通った彼の人生が見られます。それは敬虔で厳格なカトリック性であり、その表現技法です。弦楽器をベースに金管楽器が作り上げるゴシック建築の大聖堂のような壮大なハーモニーと独自性のあるスタイルです。

交響曲第5番はブルックナーが薄給のウィーン音楽院教授で借金まみれの時代の作です。第1稿が完成した翌年の夏、バイロイトでワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』の初演に参加し感化されます。至高の芸術性を求めこの曲ほか自作の改訂に着手します。しかし初演は改訂から9年後に２台ピアノで行われたのみで、オーケストラではさらに７年後、しかもブルックナー本人は病気で立ち会えず、生涯ブルックナーはこの曲のオーケストラでの演奏を１度も聴くことはなかったのです。

第1楽章は、低弦のピチカートにのって弦楽器の弱音メロディと金管のコラールの長い序奏の後、テンポがアレグロへと上がります。聞き所はヴィオラとチェロによる特徴的リズムの第1主題で、それは楽章の最後にも高揚したサウンドで響きわたります。**第2楽章**冒頭のオーボエソロは全楽章の主題のコアとなる聴きどころです。突然始まる弦楽器のコラール（第2主題）も聞き逃せません。天国的な高みです。この曲はこの楽章から書かれたそうです。**第3楽章**はせわしなく駆り立てるようなスケルツォが、木管楽器の愛らしいメロディによるトリオを挟みます。**第4楽章**はアダージョの序奏とモデラートの対位法的楽章で、金管の荘厳なコラールを再現しつつ登り詰める様は聴く者の心に汗をかかせる名曲です。

今回の演奏は、ノヴァーク校訂による版を使用しています。ブルックナーの原典版は、戦前にナチスドイツ政権時に編纂されたハース版と戦後そのナチス色を排除するかのように編纂されたノヴァーク版があります。この曲では資料上の問題点が少ないこともあり、誤植の修正程度の違いしかありません。

（演奏時間約75分）

プロフィール

©Yoshinobu Fukaya/aura.Y2

ピアノ：野上真梨子（のがみ・まりこ）

2002年青少年ショパン国際ピアノコンクール（ポーランド）日本人初の第1位。第61回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会第3位。第6回ブルクハルト国際音楽コンクールピアノ部門第1位。第16回、第17回ショパン国際ピアノコンクール（ポーランド）ディプロマ。第1回いしかわ国際ピアノコンクール大学・一般部門金賞。第5回野島稔・よこすかピアノコンクール第1位。アントン・ルービンシュタイン国際コンクール2017（ドイツ）第3位。2018年度ロームミュージックファンデーション奨学生。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を共に首席で卒業。大学代表として皇居内の桃華楽堂での演奏会に出演。下田幸二、高橋多佳子、野島稔、ビョルン・レーマンの各氏に師事。現在ベルリン芸術大学大学院に在籍。

ヴァイオリン:小高根ふみ（おたかね・ふみ）

都立芸術高校を経て東京藝術大学音楽学部ヴァイオリン専攻卒業。同大学院修士課程ソルフェージュ専攻修了。市川市文化振興財団新人演奏家コンクール弦楽器部門最優秀賞。JT主催「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」にピアノ五重奏で 出演。とやま室内楽フェスティバルセミナーに弦楽四重奏で参加。現在はヴァイオリン・ソルフェージュ両分野において後進の指導にあたる傍ら、演奏活動を行う。ヴァイオリンを小高根眞理子、高橋孝子、霜佐紀子、岡山潔、漆原朝子の各氏に、ソルフェージュを上田真樹、林達也、L.テシュネの各氏に、室内楽を松原勝也、迫昭嘉、藤森亮一の各氏に師事。東京藝術大学教育研究助手、Y.A.ミュージックアカデミー講師。

チェロ:ピーティ田代 櫻（ぴーてぃ・たしろ・さくら）

桐朋学園高等学校音楽科卒業後、米南メソジスト大学に特待生として留学、帰国後東京音楽大学及び同大学院修士修了。17年博士号（音楽博士）取得。今までに毛利伯 郎氏、ドミトリー・フェイギン氏に師事。03年第4回大阪国際音楽コンクール第2位。06年ドイツクロンベルグ・チェロフェスティバル最優秀生徒によるガラコンサートに最年少で出演。第27回市川新人演奏家オーディション最優秀賞。在学中は学　内外のオーケストラで主席を務める。木野雅之氏率いるシェルム弦楽四重奏団メンバーとしてインドネシアやマレーシア、また、ソロでもパナマ等の主要音楽大学に招待されマスタークラスや公演も行っている他、ソロ、オーケストラ、レコーディングなどを中心に活動し、後進の指導にも力を注いでいる。

管弦楽：市川交響楽団（いちかわこうきょうがくだん）

2016年に創立65周年を迎えたアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。メンバーは現在100余名で年齢構成は高校生から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

本日の出演者

【第1ヴァイオリン】
石崎俊信
石本恵理
大橋一郎
大橋かおる
皆合愛子
菅原夕
佐分利幸江
秦一宜
早川貴子
久田しげ子
山本芳功
渡辺綱介
渡辺惟

【第2ヴァイオリン】
岩田徳子
金田みどり
佐藤薫
鈴木明日香
滝澤葉子
富田八江子
中野さゆり
服部恵子
細貝春
溝田範子
武藤敦子
吉岡一郎

【ヴィオラ】
上田佳津子
内田綾美
河野真士
園田陽子
谷口善樹
奈良林弘子
星乗昭
星光
本郷尚子

【チェロ】
岩田理人
倉澤倫子
後藤庸一
鈴木正法
中村公一
中元悦治
日澤優
平得裕子
福原耕二

【コントラバス】
淺野ありさ
石本弾
神代順子
上山優子
小林真弓
高間友明
番場仙嘉
村上信乃

【フルート】
木村眞諭紀
佐藤洋行
番場ますみ
二木陽子

【オーボエ】
白木広美
二村直子
古澤恵子
本間広樹

【クラリネット】
秋永直美
井垣貴嗣
時田雄
半藤嗣人
八木良子

【ファゴット】
井垣葉子
遠藤由紀子
金坂哲
山内静

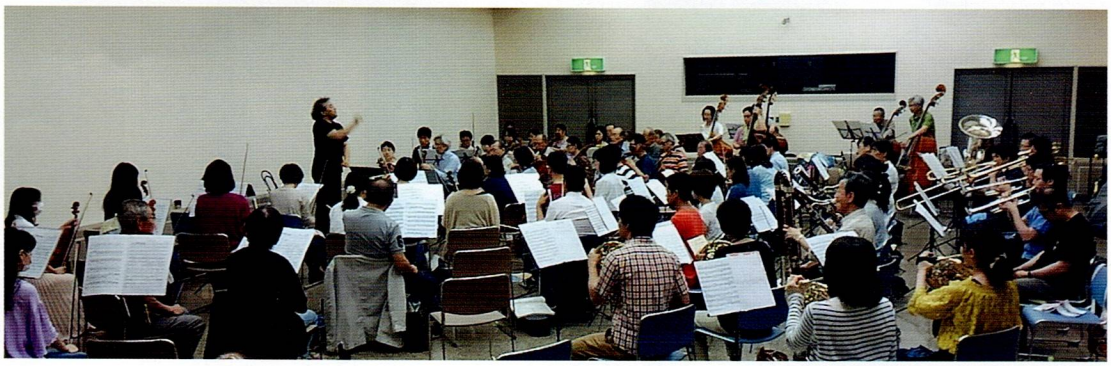
【ホルン】
井村公子
近藤利昭
嶋村恒夫
武井綾香
鳥山雅史
林田朋子
山内正晴

【トランペット】
大川富雄
関良馬
十川雅彦
田崎真二
八木巧次

【トロンボーン】
阿部浩人
石黒弘道
藤平一仁
吉川昌憲

【チューバ】
渡邉鉄雅

【打楽器】
都筑裕



今回のリハーサル風景